

議員名のあとの（ ）は、
会派の名称です。
質問文は、質問者本人が200文字以内で執筆した原文をそのまま掲載し、答弁は内容を要約して掲載しています。

国民健康保険事業の医療費適正化に向けた取り組みについて

小川 龍美 議員（公明党）



町長 国保連合会にレセプト点検を委託

質問 少子高齢化が進む中、国民健康保険の医療費は増加の一途をたどっている。生活習慣病患者が増え、特に糖尿病患者の増加が著しい。呉市では、レセプトを活用し医療費適正化に取り組んでいる。レセプト情報を基に、ジェネリック医薬品の推奨、糖尿病の重症化予防、重複・頻回受診者、生活習慣病放置者への適正受診に向けた訪問指導などを行い、大きな効果を上げている。わが町も、このような事業に取り組むべきと考えるが、町長 町は、国民健康保険連合会にレセプト点検を委託し、医療費の適正化に努めている。また、ジェネリック医薬品の差額通知を24年度は10月と2月に出す。一方、給付費増加の主な原因である生活習慣病を抑制する

ため、保健師を増員し、すでに特定健康診査事業の強化を進めている。特に、糖尿病とこれに起因する慢性腎臓病などの各種の疾病予防を目標とする。現段階での更なるレセプト点検の強化は考えていないが、引き続き、病気の予防と医療費適正化に向けた効果的な事業を推進する。

こんな質問もありました
非構造部材の耐震対策は
教育長 24年度特殊設備定期調査および外壁調査時に、天井などの設備の耐震化についてアドバイスを受けたい。



管理栄養士による栄養指導（特定保健指導）

少子化対策に積極的な取り組みを

大坪 国広 議員（日本共産党）

町長 育てやすい環境づくりに努める



流し踊りに参加した認証保育所の園児たち

質問 政府が発表した22年度の合計特殊出生率は、1・39で、前年と同水準に留まった。しかし、町の出生率は1・16、出生数も18年度から減少傾向に歯止めがかからない状況にある。子育て世代の負担を軽減し、子育て支援をすることが急務である。そこで、次の3点について所見を伺う。
問① 町の少子化対策の現状は。
町長 少子化対策は、国や都の施策に、いわゆる上乗せ、横だしを含め、町の単独事業が加わり、多分野にわたっている。
問② 中学3年生まで

契約・入札制度改革を問う

小池 信一郎 議員（自民新国会）



町長 指名停止措置期間を延長する方向で見直し

質問 納税者の負担で行われる公共工事は、制度改革を着実に進めていく必要がある。また、厳しい経済状況の中、地域の経済活性化に資する制度でなければならぬと考える。そこで、町は現在、入札方法の拡充をはじめ、小額契約案件のあり方など改革を進めているが、その内容と取組状況等について伺う。
町長 22年度から電子入札方式を導入し、23年度は、入札に付すべき契約の5割を電子入札で実施した。また、工事案件以外の委託契約についても品質の確保と資金確保のため、22年度から一定額以上の契約には、最低制限価格を設けている。少額の案件では、競争入札時、町内業者の優先指名を実施しているが、業者数が限られている場合の競争性の確保が課題である。入札妨害を防止し、公正な競争性を担保するため、指名停止措置期間を延長する方向で見直しを開始した。



地元業者が電子入札によって請負った街灯設置工事

こんな質問もありました
障がい者に就労支援の拡大を
町長 23年末に障がい者就労支援センターを開設した。今後も雇用の確保に努める。